

## 直島への手紙 第八信

前略 大岸 様

早いもので、直島町内本村地区にある高原城跡の発掘調査から2年が経ちました。

鉄塔の設置に伴う発掘調査で、町が初めて行う発掘調査を私もお手伝いさせていただきました。色々試行錯誤しながらの調査は、これまでの発掘調査でも印象深い調査の一つで、町の皆さんはじめいろいろな方に助けていただき、調査を終えることができました。

現場は2週間程の短いものでしたが、想定外の連続でした。まずは、中世のお城の調査という当てが外れたことが一つです。高原城跡は、山のてっぺんの平坦面に作られた、戦国時代から江戸時代初めの高原氏のお城です。当然建物等が出てくることが想定されました。山の上は、後の土が堆積しないため、浅いところで遺構が出てくると考え、遺構が出る面まで下げていく重機は、初日でお役御免かな、とも思い掘っていると、どんどん深くなります。深さ50cmくらいからおかしい、と不安になりました、そんなところで石を並べた跡や平らな面が出てきました。結局地表下1.2mほどの高さでは、円形の土坑や柱穴が出てきました。出てくる遺物も瓦や陶器で、塊石で、高原氏の時代以降のものです。中世のお城ではない…そこで思い出したのが、町史にあった記載と、前の年まで修理をお手伝いしていた、小豆島にある農村歌舞伎の舞台です。

『直島町史』には、この場所に、昭和の初め頃まで芝居小屋があったと記載がありました。通常、歌舞伎の舞台には、床下に、奈落(ならく)と呼ばれる空間があります。この空間から役者が飛び出したり、舞台装置の操作を行ったりします。

現在の地表から、遺構のある面までは1.2m程で、その中央には直径3m程のくぼみがありました。各地の農村舞台には、

人力にて舞台の床を廻し場面の転換を行う、廻り舞台があり、歌舞伎小屋の奈落では、廻り舞台の下のみ、深めに下げられていることがあります。人力で舞台下から押して回す構造であり、人が屈んで押さないよう窪ませた跡と考えられます。また、廻り舞台は、建物の床とある種独立しているので、その周りに補助的に束柱を用いていることもあります、廻り舞台の可能性が高いと考えています。

舞台がなくなり、遺跡のようになったところは県内各地で見られますが、それを実際に発掘調査で確かめることができたことは驚きでした。また、より古い遺構は削られていきましたが、戦国時代～江戸時代初めの土器や陶磁器も一定量見つかり、本来の高原城の時代の遺物も見つかりました。こちらは今回展示させてもらっています。

もう一つ想定外の点がありました。これは発掘調査で出てきたものと少し異なりますが、発掘によって、地域の方が持つ記憶が呼び起こされたことです。

調査期間中、仕切りも設けず現場は開放し、島内外のいろいろな方に見に来ていただきました。お話を聞くと、歌舞伎小屋があつたことを覚えている方、小屋がなくなった後のことや、親世代から歌舞伎の公演について見聞きしたこと等、発掘現場という現物を見ることで、この場所にまつわる記憶が呼び覚させられたようでした、これまで書物に残っていたこと以上のお話を聞くことができました、ある意味うれしい誤算です。

短い期間の調査でしたが、地域の皆さんの記憶の中に、2023年に、山の上で発掘をしていたこと、歌舞伎の舞台が見つかったらしい、ということが新たな記憶として刻まれてほしいと願っています。

早々  
四国村落遺跡研究会 竹内 裕貴 拝



見つかった遺構



廻り舞台に関する遺構

右側にある色の異なるところが、廻り舞台の下の窪みあとと考えている土坑です。